

上尾市立平方北小学校再編検討協議会

(意見・質問に関する資料・情報提供)

上尾市教育委員会

意見・質問一覧

(1) 学校の再編に関すること

1—1	今の子どもたちはどうしてあげよう、これから何年後かに1年生として入ってくる子どもたちはどうするのかとか、そういう考え方でやっていけないと思います。
2—1	小規模校のメリットとあるが、現状の1クラス20人程度では、1クラス30人程度の小規模校よりメリットは少ない。
2—2	平方地区では統合したとしても児童数が少ない。適正規模になりにくい。
2—3	平方地区全体の問題ではないか。平方北小だけの話ではない。平方地区の小学校全体で再編を考えたほうがよいのでは。
2—4	1年生と6年生が遊んでるのは小規模校の良い点だと思うので、大人数になることに不安がある。ただ、再編しても人数が少ないならば話は、変わってくる。不安点は通学。
2—5	先生は負担が大きいと感じている。保護者はきめ細やかな指導ができると感じている。認識のずれがある。本当に子どもにきめ細やかな指導ができているのか。
2—6	先生方への負担が子供たちへの負担になる。
2—7	子供たちが人間関係、切磋琢磨できる環境を考えたい。
2—8	1学年3クラスあれば学年の教員同士の切磋琢磨もある。1クラスだと一人しか先生がいない。
2—9	低学年のうちはクラス替えがなくても気にならないが、年齢が上がると人間関係などを踏まえて、クラス替えのメリットを感じる。
2—10	実際に不登校の児童がいた際にクラス替えができていれば、状況が変わっていたのではと感じる。
2—11	アンケートから、特に重要なのは、小規模校以外も勤務しているベテラン教員の意見だと考える。
2—12	今の状態で平方新田、丸山団地、小敷谷東部、第二団地の子供が平方北小へ登校していると思いますが、地区別の児童数は分かりますか。

(2) 通学区域の編成に関すること

1—1	通学路の問題なども結局は通学路の見直しが厳しいと言われて終わってしまったので、もう少し詳しいことをみんなで話したり、聞けたら良いと思っています。
2—1	1年生と6年生が遊んでるのは小規模校の良い点だと思うので、大人数になることに不安がある。ただ、再編しても人数が少ないならば話は、変わってくる。不安点は通学。

(3) 児童の安全確保に関すること

(4) その他事項

1—1	子供はどう考えているのかという意見を吸い上げるなど、子供の気持ちを大切に先を見越して進めていくのが大切なのではないかと感じました。
2—1	子供の意見を聞いてほしい。アンケート等で。
1—2	複合ではないが、いろんな施設も一緒に作るという話も聞いていますが、もしこちらが既存の仮に平方東小になった場合、またうちの方の避難所とかもみんな平方地区の方におんぶするってような形になるのでその辺も議論の1つ
2—2	教職員の補助員を増やしてほしい。教員の雇用環境を改善してほしい。
2—3	一貫校、一貫教育方針でどちらなのかちょっと分からない
2—4	(通学区域に関するアンケートについて) 平方小学校と平方東小学校と平方北小学校の範囲内であれば、このパーセントは違ってくると思います。

凡例… (1—○)：先頭数字は開催回次を示す

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号1-1

意見・質問:

・今の子どもたちはどうしてあげよう、これから何年後かに1年生として入ってくる子どもたちはどうするのかとか、そういう考え方でやっていかないといけないと思います。

資料・情報等:

子どもたちを第一に考え、本検討協議会を進めていただければと存じます。

(1) - 1 - 1

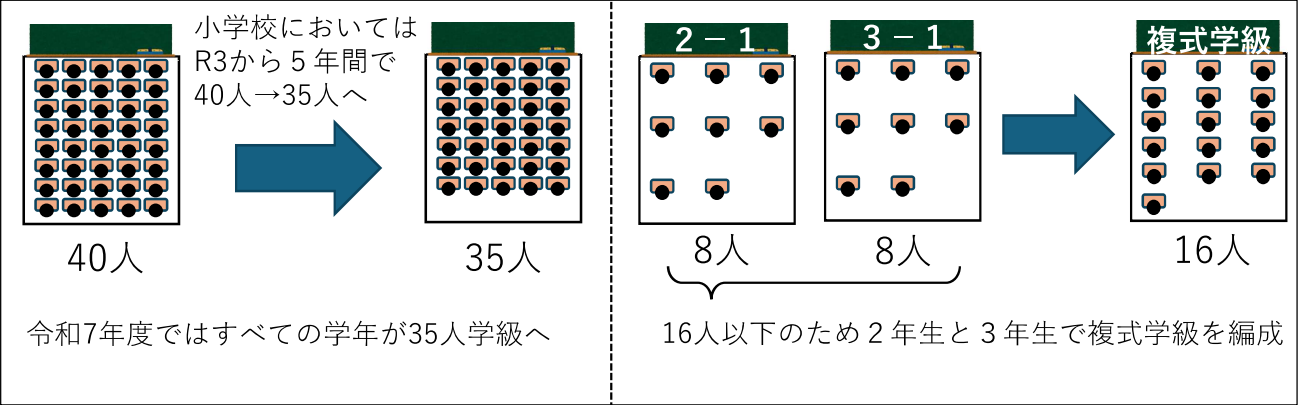
1

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-1

意見・質問:学級人数

・小規模校のメリットとあるが、現状の1クラス20人程度では、1クラス30人程度の小規模校よりメリットは少ない。

資料・情報等:学級人数



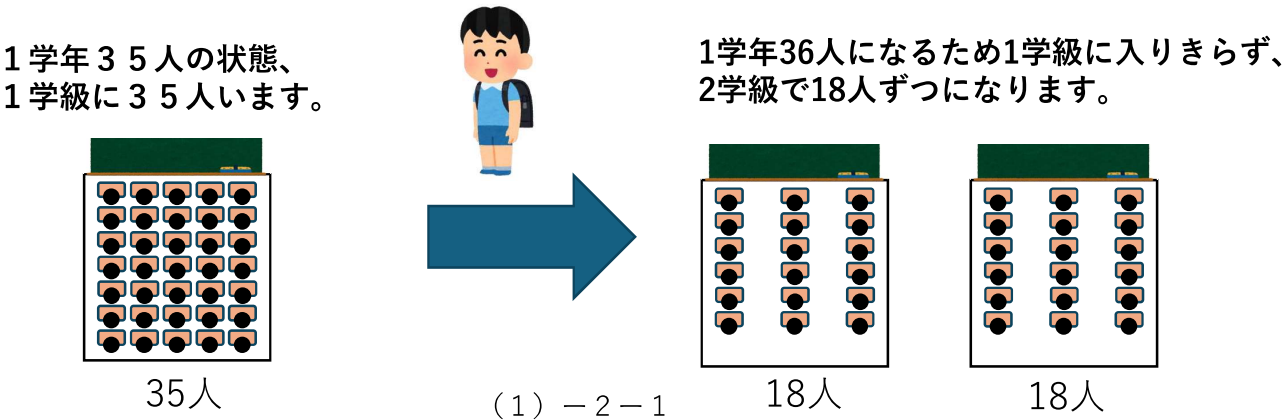
(1) - 2 - 1

2

補足説明（1学級あたりの人数）

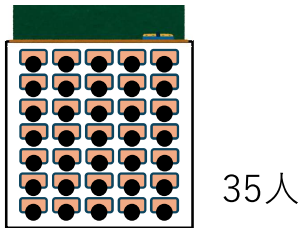
- ・ 1学級あたりの人数は、各学年の児童数と学級編制の上限人数により決まります。
- ・ 令和6（2024）年では、埼玉県教育委員会が定める埼玉县市町村立小・中学校学級編制基準において、小学校第1学年から第5学年は35人、小学校第6学年は40人が、1学級の児童生徒数の上限人数となっています。
- ・ 従って、**各学年の児童数の違いにより、1学級あたりの人数が異なります。**

この学年に児童が1人転入すると…

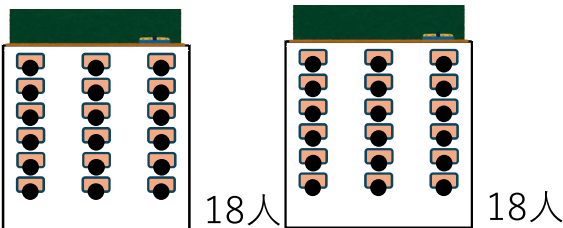


補足説明（1学級あたりの人数）

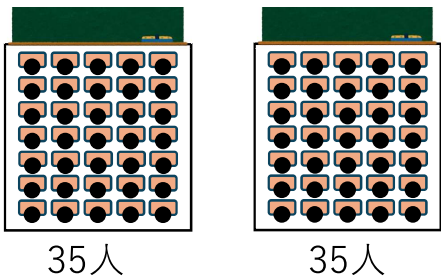
A校 小学校第1学年の児童数が35人
→ 1学級編制 [35人]
→ 1学級あたり35人となる



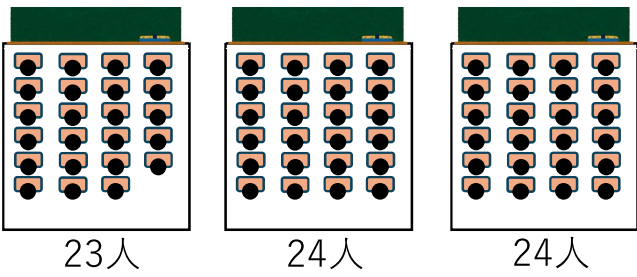
B校 小学校第1学年の児童数が36人
→ 2学級編制 [18人・18人]
→ 1学級あたり18人となる



C校 小学校第1学年の児童数が70
→ 2学級編制 [35人・35人]
→ 1学級あたり35人となる



D校 小学校第1学年の児童数が71人
→ 3学級編制 [23人・24人・24人]
→ 1学級あたり23～24人となる



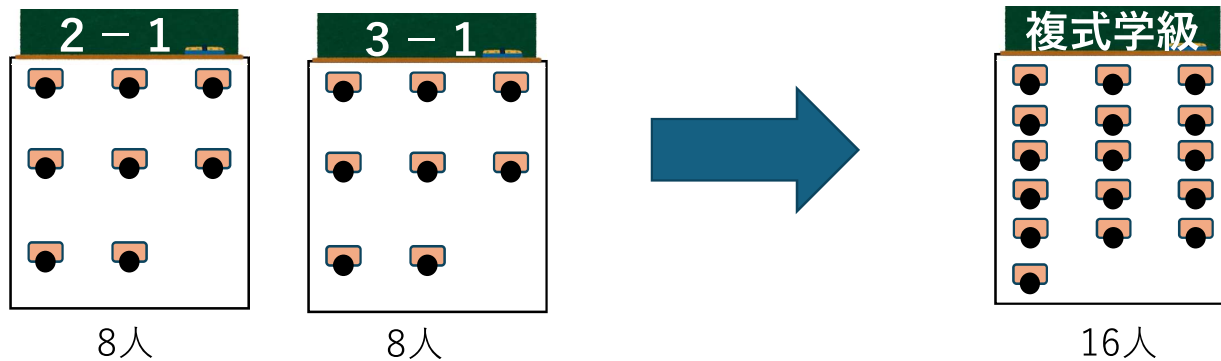
(1) - 2 - 1

補足説明（複式学級）

- ・ 2つの学年の合計人数が16人を下回った場合、2つの学年を1つの学級として複式学級にすることとなっています。
- ・ 1年生を含む場合は2つの学年の合計人数が8人を下回った場合に限りです。

2年生と3年生がそれぞれ8人ずつになっています。

2年生と3年生の2学級を一つにして、複式学級になります。



(1) - 2 - 1

補足説明（複式学級）

- ・ 令和6（2024）年では、埼玉県教育委員会が定める埼玉都市町村立小・中学校学級編制基準において、複式学級では既存の問題に加えて以下のような問題が追加されます。

- ① 教員に特別な指導技術が求められる
- ② 複数学年分や複数教科分の教材研究・指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい
- ③ 単式学級の場合と異なる指導順となる場合、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるおそれがある
- ④ 実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる
- ⑤ 兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生ずる可能性がある。

(1) - 2 - 1

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-2～4

意見・質問：

- ・平方地区では統合したとしても児童数が少ない。適正規模になりにくい。
- ・平方地区全体の問題ではないか。平方北小だけの話ではない。平方地区の小学校全体で再編を考えたほうがよいのでは。
- ・小学校1年生と6年生が遊んでるのは小規模校の良い点だと思うので、大人数になることに不安がある。ただ、再編しても人数が少ないならば話は、変わってくる。**不安点は通学。**

資料・情報等：

近隣校もふまえた検討をしました。第3回検討協議会の資料をご覧ください。

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-5～6

意見・質問：

- ・先生は負担が大きいと感じている。保護者はきめ細やかな指導ができると感じている。認識のずれがある。本当に子どもにきめ細やかな指導ができているのか。
- ・先生方への負担が子供たちへの負担になる。

資料・情報等：

【学校規模の適正化による効果】 (学校施設更計画基本計画P85参照)

- ・バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実が可能となる。
- ・校外における研修等に参加する機会が確保され、教職員の資質向上を図ることができる。
- ・教職員一人当たりの校務や行事に関わる負担を分散・軽減させることができる。
- ・教職員の負担軽減により、教材研究などより多くの時間を費やすことができる。

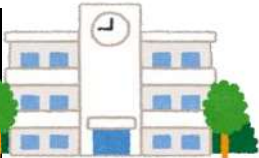
などの教育的効果が見込まれる。

○補足説明（教員配置の仕組み）

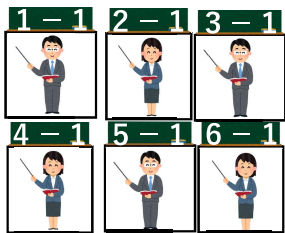
- ・ 教員の配置人数は学校全体の学級数に応じて決まっています。学級数に対応した教員配置の基準表は基本計画P 3 5に記載があります。
- ・ 基本的には1学級につき1教員が担任でつく人数になりますが、学校規模に応じて担任を持たない教員が配置されます。これらの教員は教務主任などの役割を担います。

各学年 1 学級、全 6 学級の学校

小 学 校 6 学 級	
<教職員構成>	
校 長	1 人
教 頭	1 人
教 諭	7 人
養護教諭	1 人
事務職員	1 人
計	11 人



学級担任の教員が 6 名
担任外の教員が 1 名
合計 7 名配置

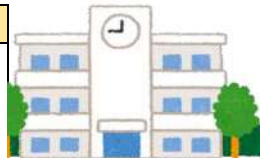


担任外教員

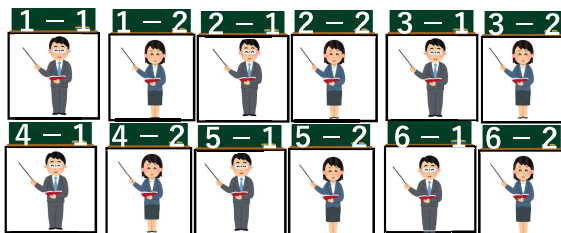


各学年 2 学級、全 1 2 学級の学校

小 学 校 1 2 学 級	
<教職員構成>	
校 長	1 人
教 頭	1 人
教 諭	14 人
養護教諭	1 人
事務職員	1 人
計	18 人



学級担任の教員が 1 2 名
担任外の教員が 2 名
合計 1 4 名配置



担任外教員



(1) - 2 - 5、6

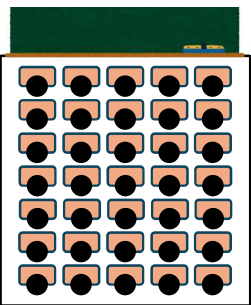
○補足説明（教員配置の仕組み）

- ・ 教員配置にあたっては、学級内の人数に関わらず学級数で算出されます。1学級18人でも35人であっても1学級で算出されます。

1 学年35人の場合

1 学級35人の 1 学級

学年に教員が 1 名配置



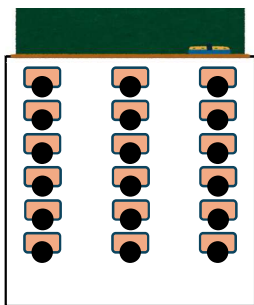
35人



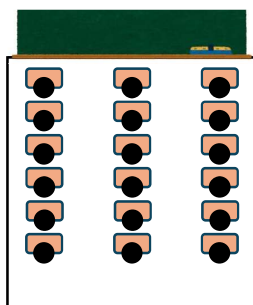
1 学年36人の場合

1 学級18人の 2 学級

学年に教員が2名配置



18人



18人

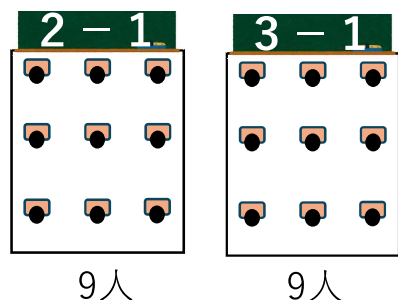


(1) - 2 - 5、6

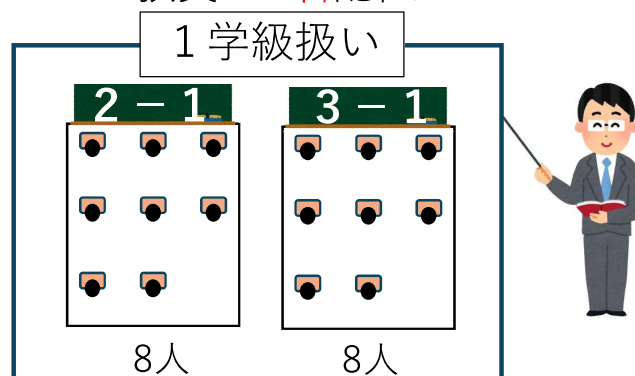
補足説明（複式学級の教員配置）

- ・ 2つの学年の合計人数が16人を下回り、複式学級の規模になった場合、2学級ではなく1学級として算出されます。

2学年で18人の場合
複式学級ではない
教員が2名配置



2学年で16人の場合
複式学級
教員が1名配置



(1) - 2 - 5、6

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-7～9

意見・質問:

- ・子供たちが人間関係、切磋琢磨できる環境を考えたい。
- ・1学年3クラスあれば学年の教員同士の切磋琢磨もある。1クラスだと一人しか先生がいない。
- ・低学年のうちはクラス替えがなくても気にならないが、年齢が上がると人間関係などを踏まえて、クラス替えのメリットを感じる。

資料・情報等:

文部科学省では、少子化の進展が中長期的に継続することが見込まれること等を背景として、学校の小規模化に伴う教育上の諸課題がこれまで以上に顕在化することが懸念されるとして、平成27(2015)年1月27日に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」を策定し、基本的な方向性や考慮すべき要素、留意点等をまとめました。(資料1)

○学校規模の適正化を図るうえで重要なこと（公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引より抜粋）

・学校規模の適正化を図る上では、第一に学校の果たす役割を再確認する必要があります。義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、**一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。**このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。

(1) - 2 - 7、8、9

13

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関すること 整理番号2-10

意見・質問:

・実際に不登校の児童がいた際にクラス替えができていれば、状況が変わっていたのではと感じる。

資料・情報等:

【学校規模の適正化による効果】（学校施設更計画基本計画P85参照）

- ・児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編制ができる。
などの教育的効果が見込まれます。

(1) - 2 - 10

14

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-11

意見・質問:

・アンケートから、特に重要なのは、小規模校以外も勤務しているベテラン教員の意見だと考える。

資料・情報等:

【資料2】

教育環境に関するアンケートのうち
勤続15年以上の教員からの回答を抽出したアンケート結果

資料2

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) - ①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)

選択肢	選択数	割合
メリットの方が大きい	0	0%
どちらかといえば、メリットの方が大きい	8	31%
どちらかといえば、デメリットの方が大きい	14	54%
デメリットの方が大きい	4	15%

■ 教員

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)の自由記述

(1) どちらかというともメリットが大きいと回答した人の理由

1. メリットに関すること 6件

- ・個別最適な学びの実現に向けて良いと思った。
- ・一人一人に目が行き届く、全職員で全生徒を見守る、指導するという意識が生まれる
- ・細かく生徒の活動の様子を把握することができる。
- ・一人一人の児童をよく見ることができる。勉強や学校生活の様子など。
- ・一人一人の児童に目が行き届くため
- ・子供一人一人をしっかりと見て指導することができるから。児童はきめ細やかな指導をもらえるから、一人あたりの使用する物や空間、人、時間等が必然的に多くなるから。

2. メリット・デメリットの両面に関すること 1件

- ・全生徒を把握しやすい。共通理解がとりやすい。集団授業でできる課題がかぎられてしまう。切磋琢磨しなれていないので、外に出ると緊張しやすくなってしまう。

(1) - 2 - 1 1

17

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)の自由記述

(2) どちらかというともデメリットが大きいと回答した人の理由

1. デメリットに関すること 11件

- ・限られた人間関係の中での生活のため、コミュニケーション能力の不足や多様性などを認める雰囲気が欠如する傾向になってしまうのではないのでしょうか。
- ・実際、小規模校に勤めているので、クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができないことが大きなデメリットであると強く感じます。学校行事、勉強などで仲間と競争する機会が少ないのは残念です。
- ・中、大規模校の生徒が当然得られる体験や教育的効果を、小規模校の生徒は得られないことがあるから。
- ・時間トラブル発生後にクラスを分けて物理的距離をとることが難しい。授業や学校行事でグループ分けをする際に、多様な分け方ができない。単学級のため、運動会等の競技では、チームへの所属感が持ちづらい。

(1) - 2 - 1 1

18

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)の自由記述

- ・ 真のリーダーを育てにくい。長年同じ環境で同じメンバーで生活をしており自分自身を変えるチャンスを生かせる環境にない。お互いを牽制しあっており個々の良さを発揮させてやれない。とてももったいない。
- ・ 中学校の場合教科担任制なので、各教科の教員の配置が十分にできなくなると、学校運営上支障が大きい。教員数が少なくなると、運営できる部活動の数が少なからざるを得ず、適性規模校の生徒と同程度の選択肢が用意できない。クラス替えができないことによる人間関係の固定化は生徒の発達に望ましくない。
- ・ クラス替えがなく、人間関係が固定し、修復しにくいから
- ・ 少ない人数の中で決まった人間関係の中で過ごすよりもたくさんの友達と関わり合い成長してほしいので。
- ・ 特に、問題行動のある児童が複数いた場合
- ・ 何年も単学級が続くと、人間関係が固定化され、関係が悪化すると逃げ場がない。

(1) - 2 - 1 1

19

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)の自由記述

- ・ 「生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける」というところが一番デメリットかと思います。また、「クラス替えが全部又は一部の学年でできない」ことで、環境が変わりにくく雰囲気が停滞してしまう可能性が高いと思います。

2. メリット・デメリットの両面に関すること 1件

児童の質の問題だと思います。落ち着いている児童ならば、手厚い指導ができる。また、地域の方々の見守りがとても手厚い。

(1) - 2 - 1 1

20

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -①「小規模校のメリット・デメリット」(教員)の自由記述

(3) デメリットが大きいと回答した人の理由

1. デメリットに関すること 4件

- ・リーダーや人間関係が固定化されてもクラス替えで一新できない。清掃活動や委員会活動で生徒及び教員の数が足りず、一つの委員会が2つ分の委員会の仕事内容を担当しているなど負担が大きすぎるため、心に余裕が生まれない。部活動が部員不足でどんどん廃部になっている。競争心が育たないし、クラス替え等で新たな人間関係を構築する機会もないため、人間関係づくりが苦手な生徒が多いし、ずっと同じような人間関係でのポジションで自己肯定感も向上しにくい。
- ・委員長や生徒会本部役員を決める際、相応の能力がなくとも立候補すれば選ばれる場合が多いため。
- ・財政上の理由から
- ・クラス替えができず、人間関係が固定化する。

(1) - 2 - 1 1

21

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -④「教員1人当たりの負担感」(教員)

選択肢	選択数	割合
負担が大きいと思う	15	58%
どちらかといえば、負担が大きいと思う	6	23%
どちらかといえば、負担が大きいと思わない	4	15%
負担が大きいと思わない	1	4%

■ 教員

(1) - 2 - 1 1

22

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -④「教員1人当たりの負担感」(教員)の自由記述

(1) 負担が大きいと思うと回答した人の理由

1. デメリットに関すること 13件

- ・校務分掌はもちろん、学年行事ひとつとっても負担がかなり大きいと感じます。
- ・校務分掌の量が多い。
- ・分掌等が増える。
- ・校務分掌は複数の主任を持つことが多く、出張等もその分多くなる。長期休業中の日直の回数も多くなり、年休等をとる機会が大規模校より少ない。
- ・校務分掌、2学年、3学年教科担当することになり、教材研究、準備に時間にかかなりの時間を費やす。毎日自宅に持ち帰り準備を行っている。さらに担任の仕事もあり精神的にも負担がかなり大きい。
- ・校務分掌をいくつも兼ねなくてはいけないことと、学年でやる仕事を1人でやらなくてはいけないから

(1) - 2 - 1 1

23

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -④「教員1人当たりの負担感」(教員)の自由記述

- ・1人当たりの校務分掌が多い。学年の仕事を分担できない。
- ・校務分掌・学年での分掌の担当数や日直が多い、また複数学年にまたがって授業を持つことが大きな負担になっているため、業務の適正人数での分散ができないし、余裕がなく働き方改革に逆行している。生徒一人ひとりを細かく見る時間的余裕も生み出せない。各学年の所属数・各委員会・部活動に配置される教員数が不足している。小規模校での勤務には限界を感じる人が多い。
- ・校務分掌が兼務になり、出張等で授業に影響するため。
- ・校務分掌の担当が増える。
- ・1人1人で抱える仕事量が多い。自分で責任を持って取り組む仕事が多い。
- ・特に校務分掌の負担が大きい
- ・教員の人数が少ないので負担が大きくなると思います。学年の仕事を担任一人で行う必要があったり、担当する校務分掌の数が多くなったりして大変だと感じています。

(1) - 2 - 1 1

24

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -④「教員1人当たりの負担感」(教員)の自由記述

(2) どちらかという負担が大きいと思うと回答した人の理由

1. デメリットに関すること 5件

- ・○教員一人当たりが受け持つ校務分掌の数が多い。○出張等による授業の補欠に入る数が、中、大規模校よりも多くなる。
- ・学校を運営する上で、省ける校務分掌はないので、一人が受け持つ分掌は多くなる
- ・1人の教員に複数の分掌を割り当ててるので、1人あたりの教員の事務量や出張の数が増えてしまう。教員の人数が少ないので、複数学年の授業を受け持つことになり、教材研究や定期テスト作成等の負担が大きい。
- ・学年の仕事を一人で行い、担当する主任も多くなるから。
- ・校務回ってくる回ってくる

2. メリット・デメリットの両面に関すること 1件

- ・職員一人一人で判断して動くことが増えるので、力のある方は楽しめるが、そうでない場合は負担に感じるだろう。

(1) - 2 - 1 1

25

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

1) -④「教員1人当たりの負担感」(教員)の自由記述

(3) どちらかという負担が大きいと思わないと回答した人の理由

1. メリットに関すること 3件

- ・絶対数が少ないため、大規模校に比べると負担が少ないかと思います。担当する教科等にもよりますが。
- ・大規模校を経験してきて、今年度小規模校に着任したが、一人一人が仕事をしっかりとこなす雰囲気があり、仕事の負担が大規模校に比べて、偏っていないと感じる。担当する分掌や教科によってはもち時数が多いところも感じるが、働きやすい雰囲気がある。出張など工夫すれば大規模校よりも穏やかな雰囲気で仕事が進められる。
- ・校務分掌や行事等の負担はわり算的に大きい。しかし、児童数を考えると○つけ等の事務処理にかかる時間は少ない。単学級だと会計等は一人で大変だが、学年経営イコール学級経営となるため負担は軽減される。

(1) - 2 - 1 1

26

○教育環境に関するアンケート調査の結果

平方北小、尾山台小、大石南中の勤続15年以上の教員26名の回答

2) - ①「学校規模適正化のメリット(効果)、期待すること」(教員) ※複数回答

選択肢	選択数	割合
クラス替えなどができるようになる(人間関係に配慮した学級編制ができる)	20	77%
学校間の教育効果の偏りがなくなる	6	23%
人間関係の広がりにより多様な価値観が形成される環境となる	22	85%
教員負担を軽減するバランスの取れた教員配置が行えるようになる	16	62%
クラブ・部活動の選択肢を広げることや学校行事をより多くの仲間で行うことができる	18	69%
学級同士が切磋琢磨したり、協力したりする環境を作れる	16	62%
様々なグループ編制により、個別指導と集団指導の両方が可能となる	11	42%
学年内での習熟度別指導や専科指導等の多様な指導体制がとれる	8	31%
多くの教員の多様な価値観に触れて学習することで、資質を向上させられる	11	42%
学校再編で得られるメリット少ない、特になし	0	0%
その他	1	4%

※回答者数に
対する割合です

■ 教員

(1) - 2 - 1 1

27

○前回の意見や質問 (1)学校の再編に関する事 整理番号2-12

意見・質問:

・今の状態で平方新田、丸山団地、小敷谷東部、第二団地の子供が平方北小へ登校していると思いますが、地区別の児童数は分かりますか。

資料・情報等:

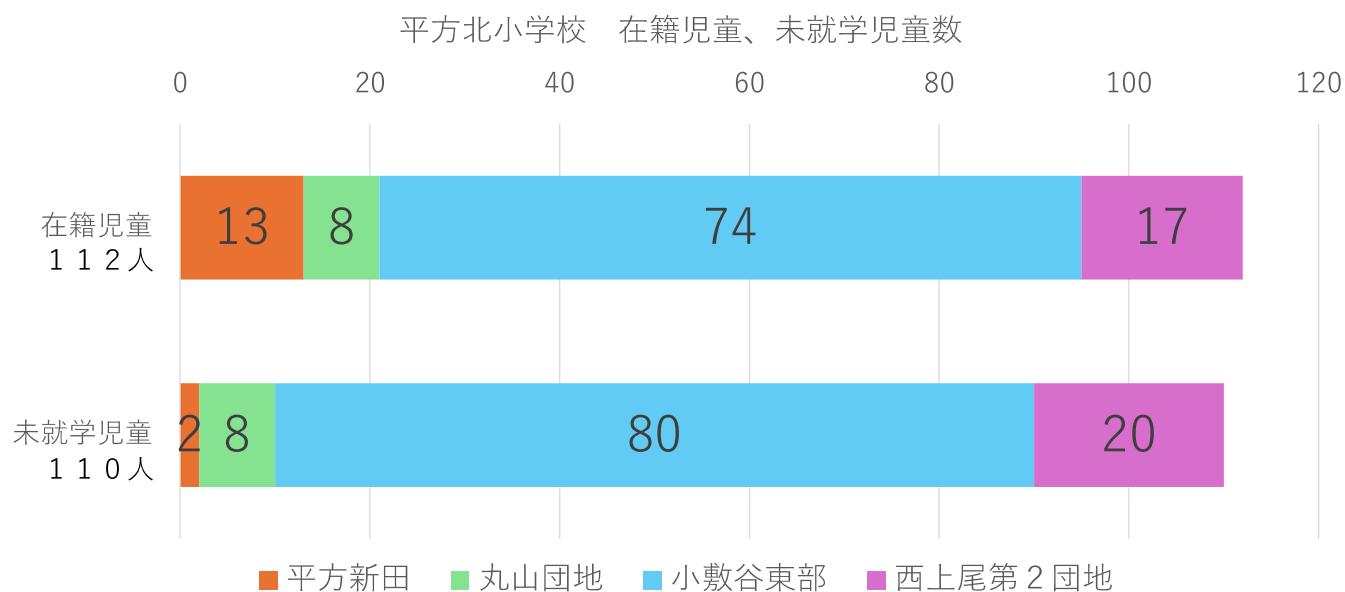
【資料3】

自治会ごとの児童数、未就学児数

(1) - 2 - 1 2

28

○補足説明（自治会ごとの児童数）



(1) - 2 - 1 2

29

○前回の意見や質問 (2)通学区域の編成に関する事 整理番号1-1

意見・質問:

・通学路の問題なども結局は通学路の見直しが厳しいと言われて終わってしまったので、もう少し詳しいことをみんなで話したり、聞けたら良いと思っています。

資料・情報等:

法令上の厳格な基準はないが、児童数や事務区、通学路などを考慮して、市町村の教育委員会が通学区域を決めています。

(2) - 1 - 1

30

○前回の意見や質問 (2)通学区域の編成に関する事 整理番号2-1

意見・質問:

・1年生と6年生が遊んでるのは小規模校の良い点だと思うので、大人数になることに不安がある。ただ、再編しても人数が少ないならば話は、変わってくる。不安点は通学。

資料・情報等:

学校再編に当たって、徒歩による通学距離については、小学校にあつては概ね1.5キロメートル以内、中学校にあつては概ね2.0キロメートル以内を目安に、子供の発達段階、通学の安全確保、地域の道路事情等を総合的に勘案して、検討します。また、やむなく目安を超えて通学する児童生徒が発生する場合は、その通学方法についても検討していきます。
(学校施設更計画基本計画P83参照)

○前回の意見や質問 (4)その他事項に関する事 整理番号1-1、2-1

意見・質問:

・子供はどう考えているのかという意見を吸い上げるなど、子供の気持ちを大切に先を見越して進めていくのが大切なのではないかと感じました。
・子供の意見を聞いてほしい。アンケート等で。

資料・情報等:

実施時期、設問内容等について、本協議会の総意をもって進めていければと考えます。

○前回の意見や質問 (4)その他事項に関すること 整理番号1-2

意見・質問：

・複合ではないが、いろんな施設も一緒に作るという話も聞いていますが、もしこちらが既存の仮に平方東小になった場合、またうちの方の避難所とかもみんな平方地区の方におんぶするっていうような形になるのでその辺も議論の1つ

資料・情報等：

上記の場合、避難所の検討や既存施設及び跡地の利活用は重要な検討・協議事項であると認識しています。

○前回の意見や質問 (4)その他事項に関すること 整理番号2-2

意見・質問：

・教職員の補助員を増やしてほしい。教員の雇用環境を改善してほしい。

資料・情報等：

上尾市では教職員補助として、アップピースマイルサポーター、特別支援学級補助員、スクールサポートスタッフを導入しています。アップピースマイルサポーターと特別支援学級補助員については児童生徒の支援や補助、スクールサポートスタッフは授業準備の補助など教員の業務の支援を行います。

○前回の意見や質問 (4)その他事項に関すること 整理番号2-3

意見・質問:

・一貫校、一貫教育方針でどちらなのがちよっと分からない

資料・情報等:

【資料4】

小中一貫教育とは 資料

(4) - 2 - 3

35

資料4

○小中一貫教育とは

小中一貫教育とは小中連携教育のうち、小・中学校段階の教職員が目指す児童生徒像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育です。

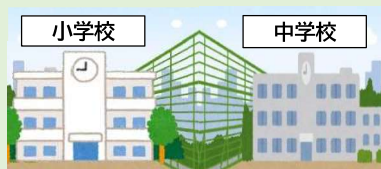
上尾市では、各学校が推進してきた小中連携の取組を充実させ、児童生徒の交流や小中それぞれの教員同士の交流等を進める中で、小中一貫教育の推進が図っていくことになります。

① 施設一体型



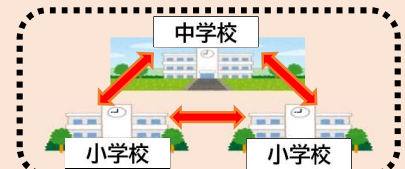
・小学校と中学校の校舎の全部又は一部が一体的に設置されています。
(小学校と中学校の校舎が渡り廊下などでつながっているものを含みます。)

② 施設隣接型



・小学校と中学校の校舎が同一敷地又は隣接する敷地に別々に設置されています。

③ 施設分離型



・小学校と中学校の校舎が隣接していない異なる敷地に別々に設置されています。

(4) - 2 - 3

36

○前回の意見や質問 (4)その他事項に関すること 整理番号2-4

意見・質問：

・(通学区域に関するアンケートについて)平方小学校と平方東小学校と平方北小学校の範囲内であれば、このパーセントは違ってくると思います。

資料・情報等：

【資料5】

通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果

資料5

回答者：未就学児保護者

問1 現在、平方北小学校は、1学年から6学年まで1学級編制の小規模な学校となっています。今後、お子様が入学予定の小学校のほかに、平方北小学校への就学を選択できるようになった場合、平方北小学校への就学を選択しますか。次の中から1つ「○」を記してください。

学校	選択する	選択しない	分からない
平方小学校	1	66	14
	1.2%	81.5%	17.3%
大石南小学校	1	64	10
	1.3%	85.3%	13.3%
今泉小学校	1	205	13
	0.5%	93.6%	5.9%
平方東小学校	2	127	8
	1.5%	92.7%	5.8%

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果（平方小学校）
回答者：未就学児保護者

資料 5

問2 「問1」で回答した理由について、次の中から1つ「○」を記してください。					
問1 回答	1. 小規模な学校だから	2. 学校が近くなるから	3. 学校が遠くなるから（近い学校があるから）	4. きょうだい が他の学校へ就学しているから	その他
選択する	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
選択しない	8 12.1%	0 0.0%	49 74.2%	6 9.1%	3 4.5%
分からない	1 7.1%	1 7.1%	9 64.3%	1 7.1%	2 14.3%
全体	9 11.1%	2 2.5%	58 71.6%	7 8.6%	5 6.2%

(4) - 2 - 4

39

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果（大石南小学校）
回答者：未就学児保護者

資料 5

問2 「問1」で回答した理由について、次の中から1つ「○」を記してください。					
問1 回答	1. 小規模な学校だから	2. 学校が近くなるから	3. 学校が遠くなるから（近い学校があるから）	4. きょうだい が他の学校へ就学しているから	その他
選択する	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
選択しない	4 6.3%	0 0.0%	51 81.0%	6 9.5%	2 3.2%
分からない	0 0.0%	1 12.5%	3 37.5%	1 12.5%	3 37.5%
全体	5 6.9%	1 1.4%	54 75.0%	7 9.7%	5 6.9%

(4) - 2 - 4

40

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果（今泉小学校）
回答者：未就学児保護者

問2 「問1」で回答した理由について、次の中から1つ「○」を記してください。					
問1 回答	1. 小規模な学 校だから	2. 学校が近く なるから	3. 学校が遠く なるから（近い 学校があるか ら）	4. きょうだい が他の学校へ就 学しているから	その他
選択する	0	0	0	0	1
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
選択しない	4	2	175	17	3
	2.0%	1.0%	87.1%	8.5%	1.5%
分からない	1	0	6	0	6
	7.7%	0.0%	46.2%	0.0%	46.2%
全体	5	2	181	17	10
	2.3%	0.9%	84.2%	7.9%	4.7%

(4) - 2 - 4

41

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果（平方東小学校）
回答者：未就学児保護者

問2 「問1」で回答した理由について、次の中から1つ「○」を記してください。					
問1 回答	1. 小規模な学 校だから	2. 学校が近く なるから	3. 学校が遠く なるから（近い 学校があるか ら）	4. きょうだい が他の学校へ就 学しているから	その他
選択する	1	1	0	0	0
	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
選択しない	6	0	96	23	2
	4.7%	0.0%	75.6%	18.1%	1.6%
分からない	1	0	2	1	3
	14.3%	0.0%	28.6%	14.3%	42.9%
全体	8	1	98	24	5
	5.9%	0.7%	72.1%	17.6%	3.7%

(4) - 2 - 4

42

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果

回答者：未就学児保護者

問3 「問1」のように、就学する学校を選択できるようになった場合、どのようなところを特に重視して学校を選びますか。次の中から 1つ「○」を記してください。

問3	1. 友達が多く入学する	2. 通学距離	3. 通学の安全性	4. クラス替えができる学校規模	5. 児童数の少ない小規模な学校	その他
平方小学校	8	36	30	6	1	0
	9.9%	44.4%	37.0%	7.4%	1.2%	0.0%
大石南小学校	6	29	30	4	0	5
	8.1%	39.2%	40.5%	5.4%	0.0%	6.8%
今泉小学校	15	137	48	7	1	8
	6.9%	63.4%	22.2%	3.2%	0.5%	3.7%
平方東小学校	16	64	43	9	1	3
	11.8%	47.1%	31.6%	6.6%	0.7%	2.2%

○通学区域に関するアンケートの学校別アンケート結果

回答者：未就学児保護者

問4 「問1」のように、就学する学校を選択できるようになった場合、配慮する点は何だと思えますか。次の中から 1つ「○」を記してください。

問4	1. 児童の負担を考慮した通学区距離	2. 児童が安全に通学できる通学路	3. 保護者や地域住民に対する意見聴取	4. 保護者や地域住民に対する説明や情報提供	その他
平方小学校	37	37	4	2	0
	46.3%	46.3%	5.0%	2.5%	0.0%
大石南小学校	31	36	1	1	4
	42.5%	49.3%	1.4%	1.4%	5.5%
今泉小学校	124	76	9	4	2
	57.7%	35.3%	4.2%	1.9%	0.9%
平方東小学校	64	64	4	4	1
	46.7%	46.7%	2.9%	2.9%	0.7%